

再商品化等の実施状況

平成 20 年度も、全ての製造業者等において、再商品化の実績は家電リサイクル法で定める再商品化等基準を上回り、例えば過去 3 年の実績においても、一貫して上昇傾向にある。

表 1 家電四品目の再商品化の実績

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	再商品化等 基準 (平成 20 年度まで)
エアコン	86%	87%	89%	60%以上
ブラウン管式テレビ	77%	86%	89%	55%以上
冷蔵庫・冷凍庫	71%	73%	74%	50%以上
洗濯機	79%	82%	84%	50%以上

平成 20 年度の品目別の再商品化の内訳は以下の通りである。

表 2 品目ごとの再商品化の内訳

(単位:t)

	エアコン	テレビ	冷蔵庫・冷凍庫	洗濯機
鉄	24,403	15,800	70,095	41,524
銅	5,406	5,719	2,401	1,605
アルミニウム	9,344	77	414	789
非鉄・鉄など混合物	25,696	1,448	20,293	11,360
ブラウン管ガラス	—	83,749	—	—
その他の有価物	8,849	32,683	28,128	24,616
総重量	73,698	139,476	121,331	79,894

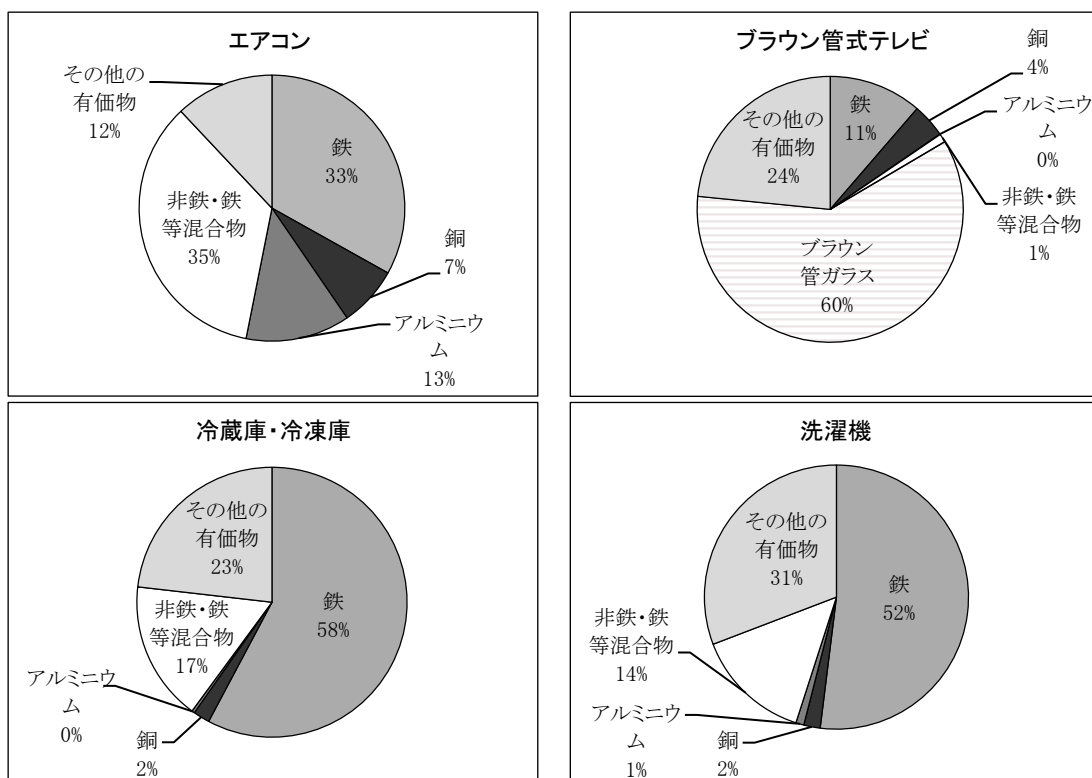


図 1 品目ごとの再商品化の内訳 (比率)

また、エアコン及び冷蔵庫・冷凍庫に冷媒として用いられているフロン類及び冷蔵庫・冷凍庫の断熱材に含まれるフロン類の回収・破壊実績は、再商品化の処理台数の増加に伴い増加している。断熱材に含まれるフロン類の回収・破壊実績については減少傾向であるが、これは、断熱材にフロン類を使用しない冷蔵庫・冷凍庫が増加していることにより、フロン類の回収対象となる製品の減少が影響しているためと考えられる。

表3 冷媒・断熱材に用いられているフロンの破壊状況

(単位:kg)

		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
冷媒フロン	エアコン	1,047,979	1,084,342	1,170,356
	冷蔵庫・冷凍庫	297,868	298,145	301,307
断熱材フロン	冷蔵庫・冷凍庫	589,832	562,020	554,472